

**東備西播定住自立圏圏域バス運行状況
(運行基準の検証)**

平成25年7月

東備西播定住自立圏形成推進協議会

東備西播定住自立圏 圏域バス運行計画

- 1 目的 兵庫県赤穂市、上郡町及び岡山県備前市の3市町で構成する東備西播定住自立圏の圏域住民の移動手段の確保、利便性の向上及び地域の活性化を図るため、コミュニティバスを運行する。
- 2 主体 計画主体：東備西播定住自立圏形成推進協議会
運行主体：(株)ウエスト神姫、日生運輸(株)
- 3 運行ルート 上郡ルート及び備前ルートの2ルートとする。(別紙)

①<上郡ルート>

上郡駅 ⇄ (千種川沿い) ⇄ イオン赤穂店 ⇄ 赤穂市民病院
【21.0km、37分】

②<備前ルート>

吉永病院 ⇒ 三石 ⇒ 新町(赤穂中央病院) ⇒ 赤穂市民病院
⇒ イオン赤穂店 【29.2km、57分】

イオン赤穂店 ⇒ 赤穂市民病院 ⇒ 新町(赤穂中央病院) ⇒ 三石
⇒ 吉永病院 【28.6km、55分】

- 4 運行日及び便数 上郡ルート及び備前ルートとも次のとおりとする。

- ◆運行日は月曜日から土曜日までの週6日間で、祝日も運行する。
- ◆日曜日及び年末年始(12月29日～1月3日)は運休する。
- ◆各ルートとも1日2往復とする。

	圏域バス(3台)		
	ウエスト神姫(2台)		日生運輸(1台)
	1台	1台	1台
月	①上郡ルート		②備前ルート
火		②備前ルート	
水			②備前ルート
木		②備前ルート	
金			②備前ルート
土		②備前ルート	
日	運 休		

- 5 運賃 ◆1回の乗車につき、赤穂市内100円、上郡町内100円、備前市内200円とし、市町域を越えた場合は200円とする。
◆小学生未満のみ無料とし、高齢者及び障がい者割引は実施しない。

例 ①上郡駅～赤穂市民病院	200円(片道)
②上郡駅～ハイツあゆみ前	100円(片道)
③有年原～赤穂市民病院	100円(片道)
④有年原～上郡駅	200円(片道)
⑤吉永病院～イオン赤穂店	200円(片道)
⑥吉永病院～三石駅	200円(片道)
⑦関西福祉大学～三石駅	200円(片道)

- 6 実証運行 運行開始から2年以内とし、期間中に利用実態等の検証を行う。
- 7 運行基準 ①市町域を越える利用者は1便当り1人超、かつ、1日当りのバス総利用者は16人以上とする。
②東備西播定住自立圏共生ビジョンによる圏域事業として実施する期間とする。

I. 運行状況報告

(1) 利用者数

上郡ルート（上郡駅～赤穂市民病院）

(H24.2.27～H25.6.30)

運行日数 (日)	利用者総数 (人)	1日当たり利用数 (人)	1便当たり利用数 (人)	市町域越 1便当たり利用者数 (人)
415	7,973	19.2	4.8	2.3

備前ルート（吉永病院～イオン赤穂店前）

(H24.3.5～H25.6.30)

運行日数 (日)	利用者総数 (人)	1日当たり利用数 (人)	1便当たり利用数 (人)	市町域越 1便当たり利用者数 (人)
409	5,213	12.7	3.2	2.3

上郡ルート・備前ルート合計

運行日数 (日)	利用者総数 (人)	1日当たり利用数 (人)	1便当たり利用数 (人)	市町域越 1便当たり利用者数 (人)
415	13,186	31.8	4.0	2.3

<運行基準>

- ① 市町域を越える利用者は1便当たり1人超、かつ、1日あたりのバス総利用者数は16人以上とする。
- ② 東備西播定住自立圏共生ビジョンによる圏域事業として実施する期間とする。

(検証)

- ・ 本格運行のための運行基準を満たしている

(2) 月別利用状況

(単位：人)

年・月	24.2	24.3	24.4	24.5	24.6	24.7	24.8	24.9	24.10	24.11	24.12	25.1	25.2	25.3
上郡	83	508	508	488	483	534	481	519	559	508	423	421	435	503
備前	0	309	260	318	266	244	329	286	334	353	370	377	407	353
合計	83	817	768	806	749	778	810	805	893	861	793	798	842	856

年・月	25.4	25.5	24.6	24.2~25.6
上郡	514	467	539	7,973
備前	333	369	305	5,213
合計	847	836	844	13,186

(検証)

- ・月により変動はあるものの、横ばいの状況であり一定の利用者数は確保できている。

(3) 停留所別・便別乗降客状況

上郡ルート

停留所別	乗(人)	降(人)
1 上郡駅	1,439	1,326
2 宮カ丘 ↳ 4 岡田整形外科	587	610
5 原西口 ↳ 9 宮前	1,355	1,318
10 権現前 ↳ 13 出口	79	66
14 真殿 ↳ 17 南野中	890	577
18 イオン赤穂店前	1,772	1,491
19 赤穂市民病院	1,851	2,585
合計	7,973	7,973

便別	乗(人)	降(人)
① 上郡駅発 7:50 発	2,886	2,886
② 市民病院発 11:30 発	2,003	2,003
③ 上郡駅発 13:30 発	1,258	1,258
④ 市民病院発 14:40 発	1,826	1,826
合計	7,973	7,973

(検証)

- ・ 停留所別乗降客状況においては、上郡、有年、高雄地区から、イオン赤穂店、赤穂市民病院への利用が多く、圏域間の移動手段の確保、利便性の向上、地域の活性化といった目的は達成している。
- ・ 便別乗降客状況においては、①7:50 上郡駅発の利用が一番多く、市民病院への午前の診察及び買い物のための利用されていることが推測される。
- ・ 備前ルートに比べ、赤穂市民病院への利用者が多い。

備前ルート

停留所別	乗(人)	降(人)
1 吉永病院	709	1,137
2 B&G ↳ 10 畑	516	408
11 三石 ↳ 18 渡瀬	1,572	1,005
19 土師神根 ↳ 24 寺山口	519	282
25 清水 ↳ 27 関西福祉大学	132	115
28 新町	232	399
29 赤穂市民病院	232	439
30 イオン赤穂店前	1,301	1,428
合計	5,213	5,213

便別	乗(人)	降(人)
①吉永病院発 8:18 発	1,526	1,526
②イオン赤穂店前発 12:05 発	1,831	1,831
③吉永病院発 13:42 発	1,035	1,035
④イオン赤穂店前発 16:35 発	821	821
合計	5,213	5,213

(検証)

- ・ 停留所別乗降客状況においては、イオン赤穂店前が圧倒的に多く、圏域間の移動手段の確保、利便性の向上、地域の活性化といった目的は達成している。
- ・ 吉永病院、三石地区、赤穂市民病院、新町の乗降者数が多く、圏域内の公共施設、病院への移動に利用されている。
- ・ 便別乗降客状況においては、②12:05 イオン赤穂店発の利用が一番多く、備前市からイオン赤穂店への買い物の帰りの利用及び、三石地区から吉永病院への午後の通院の足として利用されていることが推測される。

(4) 運行経費

運行日数及び利用者数

区 分	全体		上郡		備前	
	運行日数	利用者数	運行日数	利用者数	運行日数	利用者数
平成 24 年 2 月～3 月	30	900	30	591	24	309
平成 24 年 4 月～3 月	307	9,759	307	5,862	307	3,897
合 計	337	10,659	337	6,453	331	4,206

(株)ウエスト神姫

上郡・備前ルート

	運行費用	運賃	業務委託費
平成 23 年度 H24.2.27～H24.3.31	2,253,405 円	120,600 円	2,132,805 円
		5.4%	94.6%
平成 24 年度 H24.4.1～H25.3.31	13,785,450 円	1,124,800 円	12,660,650 円
		8.2%	91.8%
合 計	16,038,855 円	1,245,400 円	14,793,455 円
		7.7%	92.3%

日生運輸(株)備前バス

備前ルート

	運行費用	運賃	業務委託費
平成 23 年度 H24.2.27～H24.3.31	2,510,707 円	27,800 円	2,482,907 円
		1.1%	98.9%
平成 24 年度 H24.4.1～H25.3.31	5,647,950 円	390,400 円	5,257,550 円
		6.9%	93.1%
合 計	8,158,657 円	418,200 円	7,740,457 円
		5.1%	94.9%

(株)神姫バス・日生運輸(株)備前バス 合計

	運行費用	運賃	業務委託費
平成 23・24 年度 H24.2.27～H25.3.31	24,197,512 円	1,663,600 円	22,533,912 円
		6.9%	93.1%

1 乗車当たり経費 (円) 2,114 / 1 乗車

1 日当たり経費 (円) 66,866 / 日

【参考】コミュニティバス運行収支率（運賃＋その他）／運行費用

H23 兵庫県平均（25 市町）

…28.8%（うち都市部 40.9% 宝塚市、明石市、加古川市、高砂市）

H23 兵庫県地方部平均（赤穂市含む 21 市町）

…18.8%

（資料：兵庫県交通政策課）

（検証）

- ・ 運行収支率は㈱ウエスト神姫が 7.7%、日生運輸㈱備前バスが 5.1%、全体で 6.9%となっており、兵庫県の 25 市町の平均、地方部平均に比べると大幅に低くなっている。
- ・ 全体の運行経費（業務委託費）は、22,533,912 円であり、利用者 10,659 人の一人当たりの経費は、2,114 円である。

Ⅱ. 圏域バス利用者ヒアリング調査(備前ルート)

圏域バス乗降調査結果

日程	行先	便ダイヤ	市内移動	圏域越移動	計
H25/7/12 (金) 晴れ	吉永病院⇒イオン赤穂	①8:18発	0	5	5
		③13:42発	0	0	0
	イオン赤穂⇒吉永病院	②12:05発	0	2	2
		④16:35発	0	0	0
計			0	7	7

日程	行先	便ダイヤ	市内移動	圏域越移動	計
H25/7/16 (火) 晴れ	吉永病院⇒イオン赤穂	①8:18発	0	3	3
		③13:42発	2	1	3
	イオン赤穂⇒吉永病院	②12:05発	6	3	9
		④16:35発	0	1	1
計			8	8	16

バス利用者ヒアリング調査結果
(平日)

利用路線	属性	利用区間	利用目的	意見
圏域バス	40～64歳 男性	イオン赤穂～ 吉永病院	買物	電車は片道 800 円以上で、バスは往復 400 円で乗換がないのでいい。月に 1～2 回乗るが、乗っているのは 1～2 人くらいで少ない。三石の人は多いが吉永は少ない。
	40～64歳 女性	三石駅～ 新町	通院	この利用人数では存続は難しいでしょう。タクシー補助の方がよいのでは？低床バスでないと通院利用の方は困ると思う。
	40～64歳 女性	イオン赤穂～ 吉永病院	買物	圏域バスは永く続けてもらいたい。
	40～64歳 女性	イオン赤穂～ 三石駅	買物	高齢者の通院にはバスは厳しい。停留所と自宅が離れており不便。
	40～64歳 女性	宮内～ 吉永病院	通院	吉永病院の午後の診療に早めに行くために利用した。時間帯がちょうどよいので、これからも利用したい。圏域バスの存在は自分の店の客に教えてもらった。
	65～74歳 男性	福満～ 吉永病院	通院	未回答
	65～74歳 男性	吉永病院～ イオン赤穂	買物	買物に利用している。JR に比べ安く赤穂に行けるようになった。
	65～74歳 女性	福石中東～ 新町	通院	未回答
	65～74歳 女性	福石中東～ 赤穂市民病院	通院・買物	未回答
	65～74歳 女性	渡瀬～ イオン赤穂	買物	未回答
	65～74歳 女性	渡瀬～新町	通院	未回答
	65～74歳 女性	吉永病院～ イオン赤穂	買物	なくなったら困る
	65～74歳 女性	吉永病院～ イオン赤穂	買物	未回答
	65～74歳 女性	イオン赤穂～ 渡瀬	買物	今回が 2 回目の利用だが、今後は月 1 回で利用したい。
	65～74歳 女性	福満～吉永病院	通院	通院に利用している。
75歳以上 男性	土師神根～ 吉永病院	通院	高齢者が今後増えるので、バスは存続して欲しい。	

利用路線	属性	利用区間	利用目的	意見
圏域バス	75歳以上 男性	農協前～ 吉永病院	通院	自分は運転ができるが、バスが廃止されれば困るので利用している。地区で寄り合いがある時は利用するように呼びかけている。通院に非常に便利。
	75歳以上 女性	牛神社入口～ イオン赤穂	散歩	イオン内で散歩・ごはんを食べる・お惣菜を買う。12:00のバスで帰る。シルバーカーを乗せる。
	75歳以上 女性	イオン赤穂～ 牛神社入口	買物	散歩がてら利用している。現在のままでいい。
	75歳以上 女性	イオン赤穂～ 吉永病院	買物	買物に便利
	75歳以上 女性	牛神社入口～ 吉永病院	通院	通院・買物によく利用している。赤穂に行くのに便利が良い。
	75歳以上 女性	農協前～福石下	農協の帰り	圏域バスで便利になった。夫婦2人暮らしで高齢なのでバスがあれば助かる。
	75歳以上 女性	農協前～ 土師神根	農協の帰り	未回答

(総括)

- ・ 両ルートともに、一定数の利用者は定着している。また、運行基準①の「市町域を越える利用者は1便当り1人超、かつ、1日当りのバス総利用者は16人以上とする。」も満たされており、利用者の病院、公共施設、買い物施設への足の確保という目的は、達成されている。
- ・ 東備西播定住自立圏共生ビジョンによる圏域事業も継続して実施しているため、運行基準②も満たしている。
- ・ 運行のための一般財源の支出が難しい中、国の定住自立圏構想による施策に取り組み、確かな財源として特別交付税が確保できることは圏域住民にとって将来的にも大きな利益となることが考えられる。
- ・ 東備西播定住自立圏構想の施策の一つである、公立病院を拠点とした医療連携が、医師不足の現状では非常に困難な状況の中、当圏域バス事業は、単なる住民の移動手段ではなく「圏域を結ぶ交通」として、定住自立圏構想推進事業の目的達成のために核となっている事業である。
- ・ 以上のことから、本格運行に移行することが適当と考える。

(今後の取り組み)

- ・ 今後想定される超高齢化社会を見据え、免許返納、買い物弱者対策として、現行の利用者負担を維持し、更なる利用を促進するとともに、圏域の公共交通としてのタクシーの利用政策を交通部会において検討していくものとする。
- ・ ルートの変更については、圏域バスの目的が圏域内の公共施設、病院、買い物施設への運行が主体となっている観点から、より細部地域への対応は、今後の検討課題とする。